横浜みなとみらいホール施設予約管理システム　基本仕様書

１．基本事項

基本仕様書（以後「仕様書」とする）とは公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が横浜みなとみらいホール（以後「当ホール」とする）に 2013 年度導入する施設予約管理システム（以後「予約システム」とする）について、仕様を記載するものである。受注者は仕様書の条件に従うものとする。

２．予約システムの保証期間

2014 年 1 月 31 日　から　2022 年 3 月 31 日（8 年間は継続使用することを前提とする）

３．納品・検収

(ア) 納入物品

各文書の内容について、事前に当ホールの了承を得ること。

物品名	納品数
1.　サーバー　※	1 台
2.　予約システム（サーバーインストール済）	1 式
3.　予約システム（CD または DVD に焼いたもの）	1 枚
4.　バックアップ装置　※	1 台
5.　UPS　※	1 台
6.　業務計画書	1 部
7.　基本設計書	1 部
8.　詳細設計書	1 部
9.　プログラム説明書	1 部
10.　運用手順書	1 部
11.　操作説明書	1 部
12.　テスト結果報告書	1 部
13.　6～12 を CD に焼いたもの。Word 形式	1 枚

※　ハードウェアの保証書・取扱説明書を含む。5 年後にハードの更新を行う。

(イ) 納期

2014 年 1 月 31 日

5 年後のハードウェア更新の際、同機種が入手困難の場合は同等以上の製品で代替できる。具体的な時期や製品は、そのときの当ホール担当者と調整して行うこと。

（ハードウェア交換の費用、保守費用は発生年度に支払われる）

（ウ）検収

2014 年 2 月 28 日

仕様書および詳細仕様書の要件を満たしているか、使用時の不具合発生の有無について、1 ヶ月の実地確認を経て検収（完了検査）を行う。

４．ハードウェア仕様

（ア）サーバー

台数	1台（5年後に更新するので、2台を計上すること）
ベンダー	ＩＢＭ、日立、富士通、ＨＰのいずれか
サイズ	１U（ラックマウントタイプ）
CPU	インテル Xeon プロセッサー　E5-2420 1.90GHz 相当以上
メモリ	16GB 以上
ドライブ容量	SATA SSD 100GB 以上
光学ドライブ	DVD-RW 以上
OS	Windows Server 2012 以上
ミラーリング	RAID01（0+1）以上
ネットワーク	1GB Ethernet×2 以上
セキュリティソフト	Symantec Endpoint Protection（当ホールにてライセンス所有）
保守	10 年（5 年＋5 年）のハードウェアサポート

（イ）バックアップ装置

SSD ドライブとし、毎日深夜に自動バックアップを行う。5 年後に更新を行うため、計 2 台を計上すること。

（ウ）UPS

停電時にサーバーとバックアップ装置が正常に終了できること。

5年後に更新するため、2台を計上すること。バッテリー交換費用もハードウェア保守に含む。

５．運用環境

当ホールの B1 事務室サーバーラックに設置。1 年 365 日、24 時間使用できること。

（通常は 8 時 30 分～23 時 00 分頃の利用）

予約システムのクライアント PC 仕様

（既設のため、受注者で用意不要。全クライアントで予約システムが使用できるよう設定すること）

クライアント数	50 台（最大同時使用は 10 台を想定）
機種	・DELL Dimension 4600C ・NEC MateML-E ・FUJITSU　Esprimo D550/AX など
メモリ	512MB～４GB
ハードディスク	80GB～320GB
基本 OS	Windows XP Professional、Windows XP Home、 Windows Vista 、Windows 7 Professional　など
アプリケーション	Microsoft Excel 2000 以降、Word 2000 以降

セキュリティソフト	Symantec Endpoint Protection

予約システムとは別にファイルサーバー、DHCP サーバーがある。（共に Windows2003Server）

６．予約システム仕様

（ア）システムタイプ

クライアント／サーバーシステムが望ましい。Webシステムの場合は、少なくとも2種類のブラウザ（InternetExplorerとエンジンの異なる別のブラウザ）で完全動作が保証されていること。

（イ）性能の条件

快適な処理速度を維持すること（画面転換のレスポンスは通常 1.5 秒以内)。

ただし、検索時とデータ出力時は上記目安を多少超えても構わない。

（ウ）信頼性

予約システムのソフトウェアに起因する障害は、原則として発生しないこと。（もし障害が発生した場合は「６．保守仕様」を参照)。休日で保守サービスが期待できない不測の事態に備え、当ホールでバックアップデータから手動復旧できる仕組みを設けること。予約システムは RAID01 を構築することで、データの信頼性を担保しなければならない。

※参考データ

登録利用者数　約 6200 団体（2013 年 3 月現在）

予約数　約 25500 件（直近 5 年間）

各部屋の利用数

年度	大ホール	小ホール	ﾘﾊｰｻﾙ	練習室	ﾚｾﾌﾟｼｮﾝ	応接室	事務室	計
2008年	354	392	213	3520	40	77	81	4677
2009年	312	328	174	4507	137	62	134	5654
2010年	301	311	162	4539	206	40	146	5705
2011年	439	451	185	3384	113	58	125	4755
2012年	441	414	182	3376	107	32	145	4697
合計	1847	1896	916	19326	603	269	631	25488

（エ）将来性

WindowsXP、WindowsVista、Windows7、Windows８および今後リリースされる Windows 後継 OS 及びブラウザ後継バージョンでも使用できるように、将来を見越した設計にすること。10 年後、データベース容量が最大に増えた状態でも、「（イ）性能の条件」を満たさなければならない。

（オ）ユーザ管理とログ

操作する人間は自分の ID とパスワードでログオンする。誰がいつどのような操作を行ったか、ロ

グデータを取り、遡って調べられること。ユーザ権限により①管理者②運営ユーザー③通常ユーザー④閲覧ユーザーの少なくとも４種類を用意すること。

（カ）バックアップ

毎日深夜にバックアップ装置にデータの自動バックアップを行うこと。なお、現時点のデータ容量は約 100MB である。

（キ）データコンバート

現行の旧予約システムが保有する直近5年間（2009年度以降、利用日基準）の重要データについては、予約システムでも参照できるようにすること。ただし、受注者が旧予約システムの開発業者であった場合は、直近5年間の全てのデータを移行して参照できるようにすること。

（ク）データ出力

約 8～10 年後に予想される次世代の新予約システムへの移行を考慮し、予約システムで扱う利用団体情報・公演情報・予約情報・広報情報・入金情報・公演日誌などの全データについて、csv 形式で出力できる機能を備えなければならない。

（ケ）データ入力

広報情報のうち、ホームページより送信される主要情報（csv 形式）について、データ取込みができること。

（コ）セキュリティ

予約システムは当ホール内 LAN 上で使用する。データベース上の個人情報は暗号化すること。ログオン時のパスワード入力文字は伏字とすること。当ホールのセキュリティソフトは Norton Endpoint Protection（当ホールが用意する）であるが、セキュリティソフトと予約システムが不具合なく動作すること。

７．保守仕様

（ア）ソフトウェア保守

年に数回、必要に応じて予約システムの定期保守点検を行い、データを整理すること。再現性のある不具合や脆弱性があった場合は、パッチを当てるなどして、常に良好なパフォーマンスとシステムの安全性を確保しなければならない。クライアントの OS（Windows）やブラウザが新しくなった場合でも、予約システムのバージョンアップで対応できること。営業時間内はヘルプデスクを利用できること。バージョンアップとシステム改修を伴わないマスタ変更は、ソフトウェア保守のなかで行うこと。5 年後に想定するサーバーのハードウェア更新の際、予約システムとデータ全てを正しく移行させること。ソフトウェア保守は、オンサイトサポートを原則とするが、開発拠点が遠方の場合は考慮する。8～10 年後に予想される次期予約システムへの移行作業について、データ変換および抽出（不正データの修正を含む）まで行うこと。

（イ）ハードウェア（サーバー・UPS・バックアップ装置）保守

必要に応じて保守点検を行い、各ハードウェアが良好に動作する状態に保つこと。ハードウェア保守は別業者に再委託することができるが、オンサイトサポートでなければならない。

（ウ）障害対応

本予約システム（ソフトウェア、ハードウェアとも）に障害が生じた場合、受注者は平日営業日において即日対応を行い、可及的速やかに復旧すること。再現性のあるバグ（不具合）が見つかった場合は、再発しないようにプログラム修正を行うこと。

（エ）復旧費用

本ソフトウェア障害を原因とする復旧やバグ修正に関する費用について、瑕疵担保の立場から保障期間内「２．予約システムの保障期間」は無償とすること。本ハードウェア障害の復旧に関する費用について、当ホールに落ち度がある場合を除き、ハードウェア保守に含まれるため、無償とすること。

８．開発体制・中間検査

（ア）開発拠点

開発拠点は日本国内に設置し、受注者とホールが確実に連絡を取り合えるようにすること。

（イ）開発スケジュール

納品日は厳守であり、遅滞の場合は落札額から減額対象となる。受注者は落札後、当ホールと入念に打合せを行い、開発スケジュールを提出すること。もしスケジュール提出後に遅延が発生した場合は、状況と原因を当ホールに報告し、対応策について協議しなければならない。

（ウ）進捗管理

予約システム開発状況を（少なくとも月２回）定期的に報告すること。報告では、当初スケジュールと実際の進捗状況の差を明らかにすること。

（エ）中間検査

設計段階・テスト段階などの節目において、当ホールにて中間検査を実施する。当ホールの想定と異なる箇所について修正を指示した場合は、受注者はこれに従わなければならない。

９．特記事項

（ア）守秘義務

予約システム開発時および運用時に知り得た各種個人情報や当財団の内部情報について、持ち出しや他の目的に使用しないこと。受注者に起因する情報漏洩が原因で賠償問題が発生した場合は、受注者がその責任を負わなければならない。

（イ）著作権

開発中ならびに完成後の予約システム（３（ア）納入物品）の著作権に関して、当ホールが保有するものとする。